国際開発機構（FASID）奨学金プログラム
奨学生による寄稿（2021 年 4 月掲載）

すべての人に健康と福祉を
Ensure healthy lives and promote wellbeing for all at all ages.

永井萌子　2019 度採用（8 期生）

修学機関：東京大学大学院医学系研究科　国際保健学専攻　博士後期課程 2 年次
研究課題：ベトナム HIV 陽性者を対象とした生活習慣病予防に関するヘルスリテラシー測定尺度の開発（Development and validation of health literacy scale for people living with HIV in Viet Nam: Non-Communicable Disease Prevention）

略歴（ながいもえこ）
千葉大学看護学部卒業後、看護師として病棟や保育園で勤務。2011 年 NPO 法人難民を助ける会にて宮城県石巻市において東日本大震災緊急支援に従事。その後、同法人ザンビア駐在員として HIV/AIDS 対策事業に携わる。ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で公衆衛生修士を取得後、2017 年外務省平和構築人材育成支援事業の研修員として WHO ラオスにて HIV/結核プログラム支援に従事。現在国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターにてベトナムにおける HIV/AIDS 共同研究プロジェクトに従事する。
———

博士課程の研究テーマ
　現在、東京大学大学院国際保健学博士課程に在籍し、ベトナム HIV 陽性者とヘルスリテラシーというテーマで研究を実施しています。また学業と並行して、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター（ACC）が、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）のもと実施している「ベトナムにおける治療成功維持のための”bench-to-bedside system”構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト」に研究補助員として従事しています。中所得国となり海外からの援助が減少しているベトナムでは、自国の医療保険制度で HIV 診療を提供する方針となりました。そこで同プロジェクトでは、ベトナム国立熱帯病病院と協力し、保健システムの変化が抗 HIV 療法（ART）の継続や治療成績へどのように影響するか評価しています。定期的に HIV 陽性者のウイルス量と薬剤耐性を確認するため、北ベトナムにある地域病院とハノイの国立熱帯病病院をむすぶ ART モニタリングシステムを構築し、適切な治療薬の選択など効果的な治療を提供できる体制づくりをサポートしています。持続可能な開発目標

（SDGs）において「目標 3：すべての人に健康と福祉を」というテーマのもと挙げられている、「3.8　ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と質の高い保健医療へのアクセスの達成」に関連の深いプロジェクトであり、研究だけでなく実務でも学びを深める貴重な機会を得ることができています。

博士課程進学まで

私は大学卒業後、様々な場所・立場で実務経験を積んできました。私を支えてきたもの、そしてこれからも支えるものは、SDGs と同じ「すべての人が健康でいられるようにしたい。」という思いです。

大学院進学のきっかけとなったのは、WHO ラオスでの経験でした。国連ボランティアとして HIV と結核対策プログラムの支援に従事していました。HIV 感染によって免疫力が低下すると結核などの感染症に罹患しやすくなります。ラオスでは、結核の診断をきっかけに HIV 感染が見つかるケース、また HIV の診断をきっかけに結核が見つかるケースが多くありましたが、２つの医療サービスの連携に課題がありました。そこで、ラオスの HIV 対策プログラムと結核対策プログラムの協働を促進すべく奔走しました。この経験を通じて、人々の健康ニーズや社会経済的状況を考慮した全人的かつ切れ目のないサービス（包括的な人々中心の保健・医療サービス）の提供について学びを深めたいと考え、博士課程へ進学しました。

エンパワメントとヘルスリテラシー

包括的な人々中心の保健・医療サービスを提供するための体制を強化することはもちろんですが、同時に、サービスを利用する人々が、自らの健康改善や維持のために取り組み、意思決定に参加していくことも重要です。この全人的なケアと人々のエンパワメントが、現在の研究テーマであるヘルスリテラシーと繋がっています。ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する情報を入手し、理解し、健康な生活を送るため、そしてより良い意思決定を行うために活用する力のことです。ヘルスリテラシーの向上は、人々が積極的に自らの健康を増進することを可能にすると言われています。

HIV 感染症と生活習慣病

ART の普及により、エイズによる死亡は世界的に大きく減少しました。一方で、HIV 陽性者の高齢化や生活習慣病が、低・中所得国でも問題となっています。HIV 陽性者数が約 23 万人のベトナムでは、近年急速に経済発展と都市化が進み、生活習慣病が増加しています。HIV 陽性者はそうでない者と比べ糖尿病や心血管疾患に罹患するリスクが高いといわれており、HIV 陽性者の生活習慣病予防は大変重要です。ヘルスリテラシーは健康の維持と疾病予防に不可欠ですが、現在 HIV 陽性者を対象とした生活習慣

病予防に関するヘルスリテラシー測定尺度は存在しません。そこで、新たなヘルスリテラシー測定尺度を開発することを目的に、博士研究を実施しています。

現地での調査

ACC が 2007 年に国立熱帯病病院に設立し運営を続けている、ART を受ける HIV 陽性者のコホート研究参加者を対象として、調査を実施しています。新型コロナウイルス感染症(COVID19)の流行という厳しい状況でも研究が実施できているのは、ACC が今までの研究事業を通じて構築された基盤を使わせて頂いているお陰です。渡航することができないため、ベトナム人研究助手の皆さんと ACC スタッフ、そして国立熱帯病病院 HIV 診療外来スタッフの皆さんから力強いサポートを頂きつつ、調査を実施しています。研究にご協力頂くにあたり、外来スタッフや研究助手の皆さんとオンラインミーティングを重ねました。また、研究目的の共有や対象者リクルート方法に関する協議もすべてオンラインで実施しました。幸い、ベトナムの COVID19 感染者数は各国と比べて低く推移しているため、予定していたインタビュー調査はオンラインではなく対面で実施することができました。インタビューでは、生活習慣病やそのリスクに関する知識、健康や疾病に関する情報源や入手方法、理解の難しさ、健康的な生活習慣に対する関心や生活習慣改善の動機などについて調査しました。結果をもとに次のステップへ進んでいきたいと思います。

最後に、ACC での勤務と並行した博士課程での研究をご支援いただいている FASID 奨学金プログラムに心より感謝申し上げます。UHC の達成に向け、今後も研究活動に邁進して参ります。

ベトナム国立熱帯病病院

国立熱帯病病院外来の様子

ベトナム人研究助手さんとのオンラインミーティング

ACC のスタッフの皆さん、ベトナムからの研修生さんと
ベトナムの医療施設と ACC のオンラインミーティング